

令和4年度第2回若槻自然遺産散歩会 兼 モデルコース選定調査

白い岩と鬼岩にナゾに迫る —三登山林道と髻山周辺を巡る—



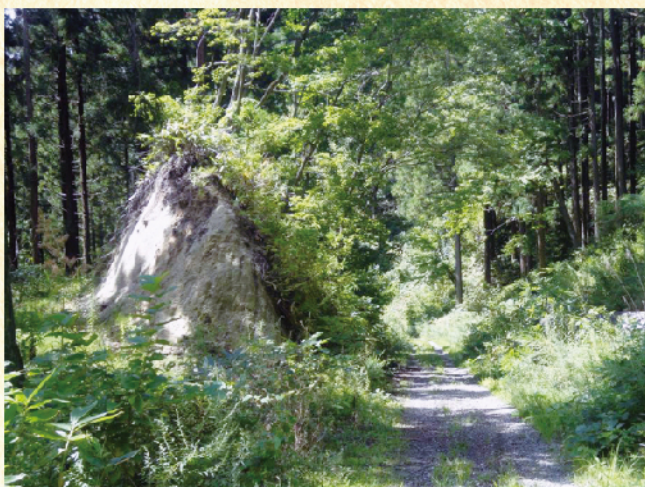
9月17日、今年度第2回の若槻自然遺産散歩会が通算5回目のモデルコース選定調査とあわせて三登山林道と髻山周辺で実施されました。

台風14号接近で心配された週末でしたが、時々青空が覗く穏やかな天気にも恵まれ、吉集落奥の駐車場を参加者14名で出発。大村ガイドの先導でりんご畑を抜け、折れ曲がった坂道を登り、なだらかな林の道を進んで旧髻集落跡、観音清水を経て744mの髻山へ。帰りは、三登山林道、隈取川沿いの道を下って出発地の駐車場に戻る約5kmのコース。紹介された自然遺産は観音清水、鬼岩トンネルと奇岩群の二箇所。他に盛りだくさんの話題、説明があって時間の経つのを忘れて歩きました。

観音清水の由緒はよく知られていること。観音清水にはもうひとつの顔がある。旧髻集落では生活用水を確保するため、観音清水を水源とする簡易水道を設置していた。その跡が途中で説明のあった2つのコンクリート水槽だという。あの細い水量でよくぞと思う。

髻山頂の土塁や西から北面にかけて見られる掘り切りの遺構は川中島合戦の時代を彷彿としてくれる。山頂から東、志賀の山並みの眺望は感動もの。一等三角点、天測点、髻神社、城跡と土塁、火山の山など山頂での話は尽きない。

自然遺産には登録されていないが注目する対象として「髻石と採石場跡」。緻密な肌とキラキラ光る小さな結晶の髻石の標本を見せてもらう。早春に現れる山頂北面の「カタクリの大群生」、下りながら林道脇の「白い岩の突



林道脇にそびえる白い突峰。三登山から小市、茶臼山、冠着山まで連なる裾花凝灰岩帯の最北端の岩とのこと。



突峰の白い壁を目の前に裾花凝灰岩と三登山一帯の地層・地形、鬼岩との関係など説明を聞く。

峰」や「白い壁」の紹介があった。

特に白い岩の突峰は長野盆地の西の減りに沿って分布し、この一帯の山地を形成している「裾花凝灰岩」帯の最北端の地表に現れ直接見ることが出来る「モニュメント」的な岩だとのこと。

隈取川の源頭を見上げる林道で二つ目の自然遺産「鬼岩トンネルと奇岩群」について。但し鬼岩トンネルと奇岩群は通行止め区間にあるため直接見ることが出来ないのので写真での紹介。写真からもおどろおどろした顔に見える奇岩などその迫力が伝わってきました。トンネルは昭和10年に白い岩である裾花凝灰岩の尾根を削りぬいて吉から袖の山方面への車道のため開削したもの。この道沿いに「鬼の顔に見える大岩」「トトロに登場する猫バスの横顔に見える大岩」、トンネル尾根の先に見える「鬼の角」状の突峰などその正体は皆「白い岩」すなわち裾花凝灰岩。ちなみに先ほど見た林道脇の「モニュメント」な突峰は横から見ると半円を伏せた形なので「鬼の爪」と名づけたかといっていたが、理由は今ここで納得。

余談になるが、今から175年前、弘化4年3月24日(旧暦)の善光寺地震で大規模な「塩沢で山崩れ」が発生し、大量の土石が隈取川を押し下り、田畑、人家を飲み込み55軒の民家と158人(区誌「よしむら」では153人)の命が奪われたという史実を被害絵図と犠牲者全員の名を記した掛け軸のコピーを示して話してくれました。

この山崩れはこの一帯の山をなす地層が「裾花凝灰岩」であったが故起こったものと言われている。

林道歩きではガイドさんが突然立ち止まって足元の何かを拾い上げ「これは何でしょうか?」と。葉っぱがヤマウルシ?と思ったが、何か赤い実のようなものが幾つも付いている。「ヌルデというウルシの仲間です。確かに葉がよく似ていますね。この実のようなものは虫こぶで「ヌルデミミフシ」といいます。中に住む虫は「お歯黒」や「インクの原材料」として利用されていました。ヌルデという名は「塗る」から来ています。」と、草木の話など話は尽きなかった。三登山山麓にはまだまだ知られていない自然があるといえます。新しい発見、出会いをたくさんいただいた一日でした。

(自然環境部会)